

第3回ジュニアセッションの報告

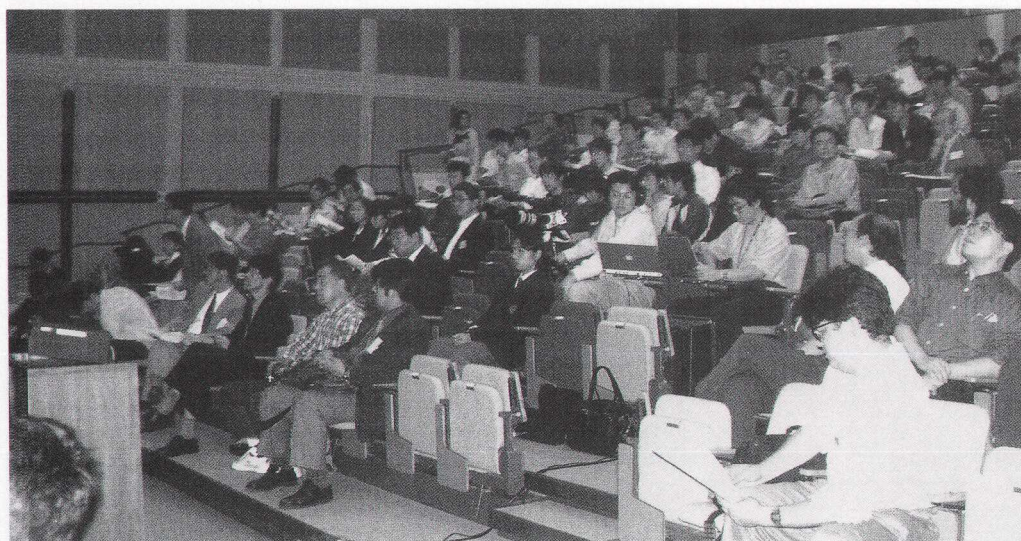
日本天文学会 2001 年秋季年会において、第3回ジュニアセッションが開催された。ジュニアセッションは、春休みの期間と重なる春季年会時に行っているが、今回は、地元からの強い要望があり、特別の開催となった。発表は、口頭発表が6件、ポスターのみの発表が1件であったが、どれも熱心に研究されたものであった。

2001 年 10 月 4 日から 6 日にかけて、兵庫県姫路市の「イーグレひめじ」にて日本天文学会の秋季年会が開催されましたが、この年会期間中にジュニアセッションも行われました。ジュニアセッションは、中学生や高校生が天文学に関する活動を発表するものですが、今回が3回目となります。第1回は2000 年 4 月の東京大学での年会で、また第2回は2001 年 3 月の千葉大学での年会で行われ

ました。これらはいずれも春季年会ですが、その理由は春休みと重なっているため中高生が参加しやすいからです。今回は、地元からの強い要望に後押しされる形で、秋季年会なのですが特別の開催となりました。

今回のジュニアセッションでは、口頭発表が6件、ポスターのみの発表が1件の合計7件の発表がありました。また、口頭発表の6件のいずれもがポスターでも発表されています。口頭発表は、土曜日である 10 月 6 日に行われ、ポスターの方は年会の会期中を通して掲示されました。発表の件数は、過去2回と比較するとちょっと少なめですが、これはやはり学校が休みではないことがかなり影響していると思われます。しかし、発表されたものは、力作揃いでした。

発表されたタイトルを表に示します。今回の特徴は、テーマが多岐にわたっていることです。口頭発表の最初の「北極星」についての調査の研究は、



口頭発表の会場の様子

第3回ジュニアセッション発表タイトル

1. 北極星に関する一般向けホームページの製作	奈良県立登美ヶ丘高等学校
2. 太陽面の5分振動の検出に挑む!	岡山県立鴨方高等学校
3. 国際小惑星監視プロジェクト, 金光中学校の取組	岡山県浅口郡金光町立金光中学校
4. 月食観測による月までの距離測定	長野工業高等専門学校
5. 流星群の出現数と流星塵の数の関連性 2	洛星中学校・高等学校, 聖母学院高等学校
6. 惑星間塵の採集	兵庫県立有馬高等学校
7. 渾天儀の復元	京都府立桃山高等学校

(発表者名は省略します)

民俗学的にも興味深い内容を含んでいるものでした。次の、「太陽面の5分振動」の研究は、高校生では難しすぎるのではないと思われるテーマに果敢に取り組まれたものだと思います。また、「国際小惑星監視プロジェクト」に取り組んだ報告については、その苦勞がひしひしと伝わってくるものでした。

4番目に発表された「月までの距離測定」については、月までの距離という非常に基本的なことについて、詳細に検討してあると思います。5番目の「流星群と流星塵」の発表は、第2回ジュニアセッションでの発表に引き続くもので、是非、今後も研究を続けてもらいたいものです。そして口頭発表としては最後の「惑星間塵の採集」の研究は、今回の発表の中では唯一、たった1人で頑張った研究でした。ポスターのみの発表としては「渾天儀の復元」の発表がありましたが、興味深い体験がポスターによくまとめられていたと思います。

このように、今回のジュニアセッションも、生徒の皆さんの熱意が十分に伝わって

るものばかりで、発表を見たり聞いたりしていて、非常に楽しいものだったと思います。実際、口頭発表のセッションでは、会場に150名ほどの参加者があり、質問やコメントも多くありました。また、ポスター会場でも、熱心な議論がずいぶん行われていたようです。

さらには、今回も参加者にはコメント用紙を配布して、各発表についてコメントを記載していただきました。集まったコメントの数は、のべ220件余りとなり、これらは各発表者にお送りしました。



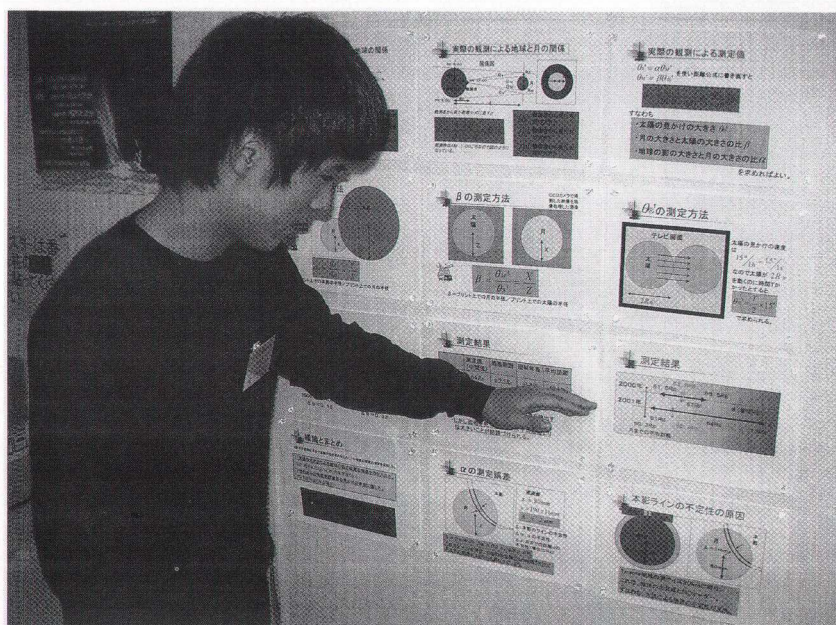
口頭発表の様子

コメントの内容としては、個々の研究への質問やアドバイスに加えて、発表の仕方についての注文や、非常に頑張って研究しているので驚いたというような賞賛、そして今後も研究を続けて欲しいというような希望も多数書かれていました。発表した生徒の皆さんにとっても、励みになったのではないかと思います。

さて、今回のジュニアセッションでは、初めての試みとしてインターネットで口頭発表を

中継するというも行いました。これは、「天網の会」を中心とした皆さんのご協力によって実現することができたものです。どのくらいの数の人が実際に中継を見たのかは分かりませんが、中継をしていたホームページへの口頭セッション当日のアクセス数は、1200件近くに及んでいます。このような中継が可能になれば、遠方の人もセッションを直接聴講できることになりメリットも大きいことと思います。今後も可能な限りこのような試みを続けていきたいと思っています。(さらに、ビデオオンデマンドで講演の様子を公開することも計画しています。)

今回のジュニアセッションは、天文教育普及研究会に共催となっていたいただいたのをはじめとし、日本惑星協会、兵庫県教育委員会、姫路市教育委員会に後援をしていただきました。また、インターネット中継では、日本通信機株式会社、



ポスター発表の様子

日本大学総合学術情報センター、ライブ!レオニズ実行委員会にご協力いただきました。さらに、会場のイーグレひめじ関係の多くの方々や、年会開催地のスタッフの皆さんにも多大なご協力をいただきました。ご協力いただきました皆様に感謝したいと思います。

なお、次の2002年の春季天文学会年会(茨城大学、水戸)でもジュニアセッションを開催する予定です。ジュニアセッションでは、発表内容のレベルは問いません。天文学に関係することで何か熱意を持って取り組んだことがあれば是非発表してみてください。さらに多くの皆さんとお会いできることを期待しています。

ジュニアセッション世話人(代表 吉川 真)

(写真は、九州大学理学部の内藤博之さんによって撮影されたものです。)